



8



5



7



6

5_ 中尊寺東物見台で営まれる大文字送り火献供法要／6_ 中尊寺本堂で行われた法灯分火式／7_ 中尊寺の「不滅の法灯」から分火された火種／8_ 分火された火種は3人の法火隊が町内を走りながら現地まで運んだ／9_ 駒形峰では法火引き継ぎ式が行われ、火種は消防団点火隊(第7、8、9分団)に無事渡された／10_ 午後8時に消防団点火隊によって64基の火床に次々と点火された



10



9

送り火の現場である駒形峰に到着すると、法火引き継ぎ式が行われ、火種は地元消防団の第7、8、9分団で構成される消防団点火隊に託された。午後8時、消防団点火隊が64基の火床に次々と点火すると、暗闇から「大」の字が少しずつ姿を現してきた。

平泉大文字送り火は、8月16日午後4時30分から中尊寺東物見台で戦没者追善、先祖代々精霊供養のための法要が営まれた。その後中尊寺本堂で法灯分火式が行われ、中尊寺本堂の「不滅の法灯」から火種が分火。火種は法火隊である平泉中学校3年生の千葉和花奈さん、同校2年生の黒澤壮吾さん、平泉小学校6年生の富士大成さんの3人が駒形峰までトーチリレーで運んだ。なお今回のリレーでは、8月に開催されたリオデジャネイロ五輪にちなみ、1964年の東京五輪聖火リレーで使用されたトーチを使用。点火を担当する消防団に火種を届けるため、法火隊は中尊寺、観自在王院跡、平泉駅前、義経堂入口、高館橋など町内を約1時間かけて走った。

interview — 点火・消火 —

地元消防団一丸となって実施

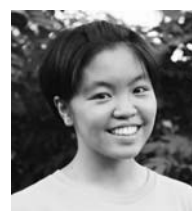
多くの人たちが見守っているため、毎年「大」の字が鮮明に映ることを願って作業をしています。また点火だけでなく消火活動も重要なため、山林内で延焼などの火災事故が起きないように地元消防団一丸となって頑張っています。



千葉勇夫 町消防団 副団長

interview — 法火隊 —

たくさんの声援がうれしかった。長い距離を走ったので、すごく疲れました。しかしこの伝統ある行事に法火隊のランナーとして関わらせてすごくうれしかったです。走っている際には、沿道からたくさんの声援があり、平泉の人たちの温かさが伝わりました。

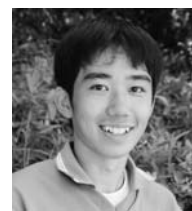


千葉和花奈 平泉中学校3年B組

interview — 火床作り —

やりがいを感じた火床作り

火床作り当日は、熱中症になりそうな天候の中で実施し、まきが重くて運ぶのが大変でした。しかし達成感ややりがいを覚える作業だと思うので、経験出来て良かったです。一つの行事にみんなで協力して取り組んで楽しかったです。



菅原陽友 平泉中学校2年B組



1



4



3



2

1_ 材料となるまきなどを手渡しで各ポイントに運び上げる／2_ 手渡しの距離は長い場所では約150mにもなる／3_ 運び上げたまきを井桁状に組み上げて火床を作る／4_ 組み上げた後に塔婆や枯れ草などを入れ、雨対策のためビニールをかぶせる

CHAPTER.2

作業を引き継ぐ— 点火までの道のり

平泉大文字送り火が赤々と燃えている時間は長くても30分程度。しかし点火に至るまでの道のりは長く、そこにはさまざまな人たちが関わり、数多くのドラマがあった。

送り火本番に向けて 有志らで火床作りを開始

8月11日、点火の現場となる駒形峰で火床作りが行われた。火床作りには、平泉中学校2年生とその保護者、町内有志ら約180人が参加。猛暑日の中、急な斜面に列をつくり、参加者はまきなどの材料を一つ一つ手渡しで運び上げた。その後も汗をぬぐいながら作業を続け、まきを井桁状に組んで積み上げ、枯れ草や「世界遺産平泉復興応援」折り鶴プロジェクトで制作した折り鶴、塔婆、古布などを差し込み、「大」の文字を表す火床64基がついに完成した。参加者は「想像以上に大変な作業だったが、今年は思い入れのある大文字が見られそうだと笑顔で話していた。